

『手錠のまゝの脱獄』 原題 <i>The Defiant Ones</i> 1958年		執筆：清水 純子
制作国	アメリカ	
スタッフ&キャスト (監督、脚本家、俳優、その他)	スタッフ：監督スタンリー・クレイマー/ 脚本ネイサン・E・ダグラス、ハロルド・ジェイコブ・スミス / 製作スタンリー・クレイマー/ キャスト：トニー・カーティス: ジョン・”ジョーカー”・ジャクソン/シドニー・ポワチエ: ノア・カレン /セオドア・ビケル: マックス・ミュラー保安官/ロン・チエイニー・ジュニア:ビッグ・サム/チャールズ・マッグロー: フランク・ギボンズ/	
画像		
カラー・モノクロ	モノクロ	
時間	97分	
ストーリー	<p>アメリカ南部を移動する囚人護送車が事故で転落する。手錠で手首をつながれた白人ジャクソンと黒人カレンは、共に脱走する。警察の追手をまいて修羅場を通り抜けて逃げる二人は、人種差別による憎しみと反目を超えて、いつしか人間同士の対等な関係と友情を築いていた。逃げこんだ民家で互いを束縛した手錠をはずし、ジャクソンはその家の女性と恋愛関係になる。しかし女性がカレンを騙したことを知ったジャクソンは、危険を承知でカレンを助けに行く。再び共に逃げる二人だが、カレンは、負傷したジャクソンのためにやっと飛び乗った列車を降りる。息もたえだえのジャクソンを膝に抱いてカレンは、望郷の民謡「ロング・ゴーン」を口ずさむ。追いついた捜索隊員が二人を見守る。</p>	
時代設定	1950年代	
場所	アメリカ南部	
社会背景	アフリカ系アメリカ人公民権運動（アフリカ系アメリカ人の公民権の獲得と人種差別の解消のための大衆運動）の高まり、クー・クラックス・クラン（KKK。白人至上主義団体）の黒人リンチ、黒人の商店や店舗、住居への放火、警察の黒人の不当逮捕や裁判所の黒人への冤罪判決。	

文化的背景	黒人差別の根強い南部の一部ではリンチが行われていた、黒人側の意識向上と存在感とパワーの認識、白人の高まっていく黒人の力への恐怖と反感、南部での黒人文化の浸透。
使用言語	英語
テーマ	白人と黒人の敵意と偏見が次第に友情に変化する。人は皆囚われ人で拘束するものから逃げて自由になろうとする。
みどころ	手錠で拘束された黒人と白人の囚人が憎しみを友情に変え、自分の身を顧みずに相手のことを思いやるまでに至る。強制的共存体制の中で芽生える人種を超えた生の人間同士のぶつかり合いと理解。
印象深いせりふ	We're doin' all right, Joker./ Yeah.../ Long gone / Ain't he lucky Long gone To Kentucky/ I left my home in Nashville / Look a- here what I got / Twenty long years on a chain gang / Sweatin' and bustin' rock/ Judge he come from Memphis / Put me in the pen/ If I ever do see his face once more/ He never get home again/ That judge be long gone/ To Kentucky Long gone/ Don't mean maybe/ Long gone/
授業教材用 メリット	20世紀中庸のアメリカ南部における人種問題がよくわかる、人種の垣根を超えた人間同士の理解と友情が描かれている。20世紀半ばとしては、画期的な白人と黒人の絆の描き方だった。
授業教材用 デメリット	黒人や囚人に対するあからさまな侮蔑と偏見、差別用語とスラング、作品のテンポを上げるためストレート・カットの編集方法をとるが、21世紀の視点からとらえると展開がスローであり、ジャクソンと女性の恋愛関係がやや唐突である。
映像入手元	20世紀フォックス・ホーム・エンターテイメント・ジャパン
原作の有無	無
支持反応	Rotten Tomatoes 評価（批評家 81，観客 88）
キーワード	囚人、護送車、田舎町、転落事故、脱走、手錠、人種問題、リンチ、黒人、白人、アメリカ南部、友情。

Copyright © Junko Shimizu All Rights Reserved.

★本サイトに掲載される情報の著作権は、清水純子に帰属します。

許可なく複製、改変、アップロード、掲示、送信、頒布、販売、出版等を禁止します。